



滑川市早月加積地区 2012年12月8日

学びやの思い出後世に 早月加積小跡地に石碑

学びやの思い出をいつまでも。滑川市早月加積地区の活性化を目指す市民グループ「明日の早月を考える会」(八倉巻忠夫代表)が、同市追分の早月加積小学校跡地に校跡碑(こうせきひ)を建てた。校舎が火災で失われてから45年。8日の除幕式に集まった会員らは「学校は心のふるさと。この地に刻まれた歴史を後世に伝えていきたい」と完成を喜んだ。

早月加積小は1890(明治23)年に創設され、多くの卒業生を送り出したが、1967(昭和42)年の火災で校舎の大部分を焼失。これを機に浜加積小と統合し、東部小となった。残された講堂は現在、早月加積幼稚園の遊戯室として利用されている。

「明日の早月を考える会」はことし7月、地域の絆づくりや活性化に取り組もうと、早月加積地区の有志約40人で発足。活動の第1弾として、地域住民の“心のよりどころ”だった早月加積小の校跡碑建立を企画し、会員や住民、地元企業などに協力を呼び掛けた。

この日の式典には会員ら約50人が出席。八倉巻代表があいさつし、石川市教育長らが加わって除幕した。石碑の表には同校に寄せる思いと建立の趣旨、裏には同校の沿革が刻まれ、会員らは目を細めて見つめた。併せてベニシダレザクラの記念植樹も行った。

同会は現在、地区の全戸を対象に、地域の魅力や改善点などを尋ねるアンケートも行き、集計作業を進めている。八川進事務局長は「さまざまな意見が集まってきている。地域の各種団体とも協力しながら、今後の活動に生かしていきたい」と話している。

早月加積小学校跡地の碑

雄峰立山連峰に 早月川の清流

そして 豊かな環境

大自然に囲まれ 育まれた 懐かしの学び舎

早月加積小学校は、明治二十三年創校以来、地区民の知恵と英知を
一心に集め、「早月加積」の心の拠りどころとして、大きく成長いた
しました。

大正六年に、本館その他の大改築により、名実ともに充実した
素晴らしい校舎に廻りました。

創校以来、質実剛健、温厚誠實を校風とし、幾多の素晴らしい
人材を世に輩出してまいりました。

こうした中において、昭和四十二年四月、本館を合併する大合併の
大災害に遭遇し、このことが契機となり、早月加積小学校との機会が
実現し、親玉の、河内市立豊科小学校が誕生し、雄文に早月加積、礎
が継承されているところがあります。

明治以来、七十八年有余の水きにわたり、輝かしい歴史を誇ら
しい校風に育まれた、早月加積地区民の心のふるさと、早月加積小
学校に「懐かしい」をいたし、ここに記念として、早月加積小学校跡地
の碑を建立し、水くぬが先達の遺かけを大に受け継ぎ、子や孫々に
語り継がれることを心から村会するものであります。

平成二十四年十二月八日

明日の早月を育める会